



第33回 社友会総会・懇親会のご報告

2026年5月23日（土）昨年に続き桜木町駅前の県民共済ビル内「メルヴェーユ」にて、第33回社友会総会・懇親会を開催しました。新入会員4名を含む会員57名と会社からは業務多忙のところ、榎社長、三好人事総務部長、松浦人事総務部副部長、山下総務係長の4名のご臨席をいただき、総勢61名の参加となりました。懇親会では長寿祝いの贈呈や新たに企画した抽選会も行われ大いに盛り上がりしました。



13時開会 司会進行は、昨年に続き中村睦夫さんが担当されました。

総会 牧之田社友会会長による挨拶及び2025年度事業報告

みなさん、こんにちは。久しぶりにお会いする方、1年ぶりにお会いする方、最近お会いした方などさまざまですが、皆さんお元気でしたか。

本日は2026年東亜石油社友会の総会・懇親会にご出席頂きありがとうございます。

また日頃から社友会活動にご理解・ご協力頂き感謝致します。

本日はご多忙の中、東亜石油より榎社長、三好人事総務部長はじめ4名の幹部の皆様にご臨席を賜りました。誠に有難うございます。加えて会社からは、社友会の運営に必要な費用の助成金と、本日の総会・懇親会の祝い金を頂いております。改めてお礼申し上げます。

有難うございます。また、製油所は現在長い定修工事の最中とのことで、大変お疲れ様でございます。

それにしても物価が高くなりました。材料費や人件費等の価格転嫁に加え中東情勢の不安定化による原材料費の高騰が物価高に追い打ちをかけていると言われております。何とか早く落ち着いて貰いたいものです。

さて、会員の皆さま方におかれましては、限られた時間ではありますがご歓談を楽しんで頂ければと思います。そしてこれからも健康に留意され、また来年の総会にも元気なお姿をお見せくださることを楽しみにしております。

報告内容

- ① 本日の総会・懇親会出席人数：61名（会員・新規会員：57名、来賓：4名）
- ② 会員の移動（2026.5.23現在） 会員数：191名、新規会員：7名、ご逝去：7名
- ③ 役員の異動 退任：幹事/齋藤健司さん、就任：幹事/大田 勝さん
- ④ 2025年度（令和7年度）事業報告
各活動はほぼ計画通り遂行できた。費用・財産もほぼ予算通りに推移した。
- ⑤ 2026年度（令和8年度）活動計画
費用・財産については2025年度並みで推移する見込みで予算案を作成した。
2025年度の活動を踏襲して新たな試みにも挑戦する。
2027年の総会・懇親会は5月22日（土）に今回と同じメルヴェーユで開催する。

来賓挨拶 榎社長（要旨）

本日は東亜石油社友会総会の開催、誠におめでとうございます。また本日大勢のOBの方々が元気に顔を合わせることができたことを大変うれしく思います。

少し自己紹介をさせていただきます。私が生まれたのは昭和41年（1966年）4月ですので今年がちょうど還暦です。皆さんもそうだと思いますが、年を取っているなと自分では意識しなくなったというか、昔ですとすごくおじいさんだなと見ていた年齢のはずなのに、最近の自分はまだまだ若いと思っています。健康寿命も最近はどんどん伸びていますので、私も皆さんに負けぬように頑張っていきたいと思っています。



先ほど牧之田会長から東亜石油の現況についてお話を頂きましたが、今年は大定修をしております。工事の量は多いですが、働き方改革の影響で協力会社側の制限がありまして、週1日は休みとなったり、1日あたりの工事量も制約されています。そのため、東亜だけでなく国内製油所の昨今の定修期間はほとんどが約3ヶ月です。皆さんが現役の頃だと1ヶ月から1ヶ月半くらいのイメージでした。今はその倍です。

今回の定修は3月下旬にシャットダウンして7月近くまでを予定しています。皆さんが現役で活躍された頃と比べると定修の雰囲気が変わりました。昔のようにガムシャラにという気持ちは弱まっているのかなと感じます。

私も昭和生まれなので昔と比較して思うことがあるのですが、遭遇した難題に対して若い人がもう少しねばったりできたらいいと思います。それを一所懸命ベテランが支えてですね、おそらく昔と比べれば厳しさはだいぶ減っているとは思いますが、それでも若い人はやはり厳しいとの受け止めをしています。皆さんが現役で活躍されていた時代と同じだろうとの思いでそのまま現場に入るとビックリするのではないかと思います。そのような状況で一番困っているのが中間管理職（課長）です。課長はもっと良くしたいなという思いが強いからです。

私は昨年の6月25日に着任しました。初めての川崎での勤務です。その前はコロナ真っ最中に3年間昭和四日市石油の所長をしておりました。出光興産に入社した時には昭和四日市石油、東亜石油で働くことになるとは考えてもいなかったです。

私が出光に入社したのは平成元年（1989年）です。最初の勤務地は千葉製油所で、当時は元売りが11社くらいあって、製油所も今の倍以上あり、川崎エリアは対岸の製油所だという感じでした。千葉側には出光、コスモ、極東石油、富士石油が、川崎側にはエネオス川崎（旧東燃）、エネオス根岸、昭和シェル、東亜と結構たくさんあったので意識はしていました。当時は外資のエクソン、モービル、シェルが、日本の石油会社に資本参加していましたが、燃料需要が2000年頃でピークを迎え、その後需要は減少し彼ら外資は撤退してしまいました。

そんなことでいろんな再編が起こって、出光としても国の中でどう頑張っていくのか、国のエネルギーとか、皆さんの暮らしとか、どう責任を果たしていくのか。こうした中で、同じように活躍されている人々と手を組んでいくぞという流れが2010年くらいから強くなってきて、我々は昭和シェルさんと経営統合いたしました。うれしいことに、私は昭和四日市石油で勤務できましたし、東亜石油でも勤務することができました。両方経験している人は少ないですが、実は三好（人事総務部長）が私と同じように動いております。

本日はOBの方々とお会いできる機会を作って頂きましたこと、誠にありがとうございました。本日のメインは先ほどの会長報告とこのあとの懇親の時間だと思います。会社仲間の元気な姿を確認しながら皆さんが今年も元気に活躍いただけたらと思います。

現役の我々としても、皆さんにご心配をかけないように、製造現場ですから事故で怪我をするということが無いように安全にやっていくことが大事であると思っています。

来年も5月22日にここで定時総会が開催されるということです。また皆様方とお会いできたらと思います。

本日は定時総会の開催 誠にありがとうございます。

懇親会 13時30分から15時

懇親会に先立って、昨年の総会以降に逝去された7名の会員（武者義雄さん、岡田智典さん、川島弘さん、甲斐種千代さん、納富敏郎さん、井上重延さん、代田浩司さん）に黙祷を捧げた後、原田修さんの「乾杯」の御発声で懇親会がスタートとなりました。皆さん、和やかな雰囲気の中で話も弾み、新会員の紹介に続いて長寿会員が紹介され記念品を贈呈して全員でお祝いしました。

さらに今回初めての試みとして「大抽選会」を企画しました。「東亜石油社長賞」、「メルヴェーユ賞」、「社友会会長賞」の特別賞もあり皆さん抽選結果に一喜一憂して大いに盛り上がりました。約1時間半の楽しい時間はあっという間に過ぎ、原田利彦さんによる「閉会」の挨拶をもって今年の懇親会もお開きとなりました。



司会進行の中村睦さん



物故者へ黙祷



原田修さんによる乾杯の御発声



根本、若林、中里さん



新入会員の自己紹介
諸田健一、川嶋勝、小川宗一、佐藤周之さん



米寿の皆さん
中村征、山崎、川嶋、上谷田、降矢、若林さん



喜寿の皆さん 諫早、村田、齋藤さん



東亜石油社長賞 大掛さん当選



社友会の会長賞 鷲頭さん当選



遠路岡山から参加の小谷さん



中締めのご挨拶 原田さん

最後に、
記念の集合写真を撮り、
お開きとなりました。

会員の投稿記事

東亜石油の思い出（後編）

根本 信成さん

製油所の拡張工事（昭和42年から）

1 川崎製油所の大規模な拡張工事の実施

昭和42年11月1日付にて本社に臨時建設本部が設置され配属された。つぎのような大規模な建設工事が計画され、ほぼ同時期に実施された。

- ・川崎製油所本館事務所の建設
- ・集中合理化装置の建設
- ・第2工場～第3工場への連絡配管の建設
- ・第2工場～第3工場への蒸気（10kgスチーム）配管の敷設
- ・第3工場内の改造
- ・扇島石油基地の建設（OSK）・24B原油配管の敷設（第3工場～東扇島～OSKの海底配管）

それぞれの建設計画に対し東亜側担当者が決められ、関連する工事の連絡調整を行った。

(1) 川崎製油所本館事務所の建設

社員寮として使用していた東亜会館の跡地に鉄骨造り3階建ての川崎製油所本館事務所を建設した。当初は4階建てで計画したが地質調査の結果、この場所が湿地帯でN値（地盤の硬さや強度を示す指標）が3程度の軟弱地盤であることが判明し3階建てに変更して建設された。

施工は清水建設（株）が担当し、基礎工事は長さ7mのコンクリートパイルを約220本程打設した。清水建設の担当者によれば所謂「べた基礎の形式」であるとのことであった。昭和43年10月頃に完成した。

東亜側の現場担当として連絡調整業務を担当した。その後、本館事務所の東側に鉄筋コンクリート3階建ての別館が建設され、1階は風呂場、2・3階は従業員のロッカールームとして、また3階フロアの一部は一時サロンに改修され社員の憩いの場として使用された。

(2) 集中合理化装置の建設

5地区の東側にあった大阪製糖の土地を買収、2区画に分割しその1区画に原油処理能力65,000BBL/日の常圧蒸留装置を中心とした装置群（INTEG）建設された。残りの1区画（現在のPV装置エリア）には大型の倉庫が2棟建設されていて、その1棟を利用して、ベニヤ板で間仕切りし、東亜石油の建設部と建設業者の現場事務所として活用した。

もう1棟は建設資材の保管倉庫として使用された。

(3) 第2工場～第3工場への連絡配管の建設

第2工場から第3工場への原油・製品輸送用として、24Bの原油配管・12Bの重油配管3本を含む石油製品輸送用として、合計15本の配管を敷設した。施工ルートは本館事務所の裏側にパイプラックを建設、臨海鉄道敷地を埋設して横断、水江通りの歩道下に3段に分けて敷設した。敷設位置は歩道の地盤面から1～3mで、当時大変めずらしい工事として神奈川新聞に掲載された。臨海鉄道横断部分は配管保護のためカルバート（箱形の暗渠）構造とした。

施工は日本鋼管工事が担当、土木工事は日本鋼管の指揮のもとに戸田建設（株）が担当、第3工場内の土木工事は鹿島建設（株）が担当した。工事場所の水江通りの歩道部分は地下水位が高く、排水作業に苦労した記憶がある。また、工事中の大雨によりカルバート部分が水没したため、排水作業中に感電する事故が発生した。工事再開までに約3週間を要した。東亜側の担当として連絡調整業務を担当した。

(4) 第2工場～第3工場への蒸気（10kgスチーム）配管の敷設

第3工場の重質油タンクの保温用・保安用スチームとして、10Bの配管を敷設した。敷設場所は、臨海鉄道線路敷地の企業側の堀に沿ってU字溝を設置して敷設した。当時、雨水対策に問題が発生し、後に二重管構造に変更された。



(5) 第3工場内の改造

当時、日本鉱業(株)水江油槽所として運用されていたのを買収し、大部分は東亜石油が運用、一部は共同石油が運用することとなった。名称は東亜石油(株)川崎製油所第3工場に変更された。第3工場内の改造は大規模で、大型の屋内倉庫設備(3棟)は全て撤去、跡地に陸上出荷設備(ローリー・タンク車)、第2工場からの製品受け入れ配管、原油移送配管、蒸気配管などが敷設された。

(6) 扇島石油基地(OSK)の建設

昭和43年1月、コスモ石油と共同で、扇島の埋め立て地に原油の受入基地として、シーバースおよび貯蔵能力50,000KLの原油タンク6基と付帯設備を設置した。この工事場所の近くの海岸は、あさが取れる名所でもあった。

(7) OSKからの24B原油配管の敷設

第3工場から東扇島までは海底配管、東扇島内は護岸上に敷設、東扇島から扇島までの運河部は海底埋設、扇島構内は埋設配管として敷設された。海底に埋設する24B原油配管工事に伴い、船舶に対する当該場所での「投錨禁止」の警告がタンクに表示された。



12. 東亜共石名古屋製油所勤務時代

名鉄常滑線の見古駅の近くには大規模な工業団地が造成されていて、東亜共石名古屋製油所建設用地、南側には中部電力知多火力発電所、そしてさらにその南側には出光興産(株)愛知製油所が建設されていた。

当時は、一面に草が生い茂った広い荒地で、この一角に建てられたプレハブ構造の仮設建設事務所にて、建設準備作業が行われていた。昭和47年5月頃から当時の建設部員全員が集合し、本格的な現場工事が開始された。

また、仮設建設事務所周囲の原野は昼休み時間を利用して打ちっぱなしのゴルフ練習場として大いに活用されて、相当上達したメンバーもいたようである。



仮設建設事務所



仮設事務所から中電知多火力発電所を望む



当時の現場担当建設部員

13. 本社勤務時代

幻となった東亜石油(株)香港製油所建設計画 本社社長室が中心となり極秘に検討が進められていた計画で、香港島から船で約40分程の島(島名は失念)に、原油処理能力100,000BBL/日の常圧蒸留装置及び関連処理設備・原油タンク群などの建設計画が進められ、具体的なプロットプランまで作成されていた。本社環境管理課長が中心となり、現地での調査結果などを踏まえて、環境影響評価が進められていた。しかし昭和51年頃、経営状況の悪化に伴いこの計画は中止された。

川崎製油所の勤務(昭和52年から)

14. 本社から川崎製油所への勤務変更とその後について

(1) 昭和52年に本社から川崎製油所の保安環境部保安課勤務

保安防災資料の充実 当時、保安環境部長が中心で保安教育関係の資料の充実が進められていた。黒表紙の「保安防災教育資料」が作成され、製油所従業員全員に配布された。更に、防災に係る補完資料として、通称「オレンジブック」が作成され配布された。保安防災教育の充実と、災害に対する緊急対応措置について検証が行われていた。その後、高圧ガス自主保安認定資格の取得を目指して、会社紹介を兼ねた教育資料として「伸び行く東亜石油(製油所の機能と精製のしくみ)」(VHSテープ版)が平成元年頃に作成された。この資料は保安関係官庁の担当者には大変好評であった。

緊急時対応訓練 毎月1回保安環境部長と保安課員が製造部門の現場に赴き、様々な災害を想定した訓練のテーマを示し、現場係員の対応と操作などの正確性について検証を行っていた。併せてマニュアルの検証なども行っていた。しかしながら我々(保安環境部長と保安課員)が製造現場の計器室に突然赴くと何か歓迎されざる雰囲気を感じられた。

(2) 工事課勤務時代

昭和55年に工事課へ異動となった。当時、工事課員に退職者が多く発生したため、その補充として、過去に工事関係を経験した人員として、白羽の矢が立ったとのことであった。過去に工務課設備係、工事係、本館事務所の建設、第2工場～第3工場の連絡配管工事などの経験があったためであろう。

(3) 環境安全室勤務時代

昭和62年9月に工事課から環境安全室勤務に異動となった。保安4法に関する許認可申請・届出業務、その他の保安に関する業務を担当することになり、今までの業務では法律に関しては無縁であったため、難解な法律上の基準等の解釈については面食らうことが多かった。申請届出業務時は行政機関の担当者には大変お世話になった。

(4) 高圧ガス自主保安認定事業所資格取得チーム

通商産業省立地公害局保安課から、高圧ガス製造設備の2年連続運転に関わる基本的な考え方が示され、一定の要件を満足した事業所に2年連続運転の資格を与えることとなり、いわゆる自主保安認定事業所制度であった。

昭和63年9月に「自主保安認定事業所」の「資格取得チーム」が発足し、準備作業を開始した。チームメンバーは主に環境安全室・工務部の出身者であった。

申請書がほぼ出来上がり、申請の準備が整っていたときに、平成3年11月27日の午後、申請に関する段取り等の会議中、第1工場内LE装置(ライトエンド装置)で火災事故が発生した。現場工事を担当していた協力会社作業員が亡く

なされた事故であった。この事故により、自主保安認定事業所の申請はできなくなり、その後も紆余曲折があり、申請はその都度見送ることとなった。

外部有識者の指導を受けて、全社あげて無事故無災害に努めた結果、平成9年秋に審査が行われ、平成10年初頭に念願の自主保安認定事業所の資格を取得することができた。昭和63年に認定事業所の資格取得を目指してから、実に10年の歳月を要した。

おわりに

社友会事務局から依頼され何か一筆ということで、入社してから定年退職するまでの37年間の会社勤務を思い返し、ここにその一部を披露させていただきました。

パソコンの画面を見ていると、勤務中の楽しかったこと、苦しかったことなどが次から次と思い出されました。無事に定年退職を迎えられたことは、先輩方、同僚、後輩の皆様方に支えられて、職務を果たすことができたと思っております。

このことは私の人生にとって、何よりの宝物ではないかと思っております。

ここに感謝申し上げるとともに、皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。



会員の投稿記事

男の料理教室（シェフ小和田）

河内 満さん

私が参加している「男の料理教室」は、今年で発足32年になる歴史のあるサークルで会名は「シェフ小和田」といいます。前職（水素関連）で一緒に働いた茅ヶ崎在住の同僚から誘われ、お試し体験（そば打ち）に参加したのがきっかけで入会し、今年の6月で丸2年半になります。

現在の会員数は17名で平均年齢は75歳位だと思います。活動は茅ヶ崎市の小和田公民館で月1回例会を開催しています。料理指導をして頂いている「茅ヶ崎市食生活改善促進団体」の女性講師から、美味しくカロリーや塩分を考えたレシピ（主菜、副菜、汁物、デザート）が会員に届き、例会では調理台を囲み、食材の切り方、調理の順序やコツなどの手解きから始まって、4人1卓で合計4卓の実習室はさながら戦場に様変わります。高齢者の集まりのため基本は減塩ですが、「味がしない」と言いながら勝手に調味料を増やす方もいて味が濃くなったりしますが、基本失敗は許されて？講師のご指導宜しく、各チーム自慢料理が完成、試食会は料理の寸評や食の話題で話が弾みます。

例会の他には、8月は暑気払い、12月は自主料理（講師が参加しない例会）で、そば打ちをやっています。昨年の4月には発足30周年記念行事として伊豆高原への一泊旅行を企画し、会員の方の会社の閉館間近の保養所を利用して頂き、貸し切り状態の中、大いに盛り上がりました。翌日は帰宅組と散策組に分かれ、散策組は保養所から八重桜並木→門脇のつり橋→城ヶ崎海岸駅までのんびり歩き、八重桜の見ごろは過ぎていましたが、楽しい一泊旅行でした。

仲間とわいわい厨房を囲みながら楽しくやっていますが、今後はもう少し料理の腕を上げて自分のスペシャリティ（得意料理）を見つけたいと思っています。



調理中の様子



調理のコツを手解き



完成！（主菜はキャベツしゅうまい）



完成品で試食会



2次会組



城ヶ崎海岸にて



宴スタート



麻雀組

筆者は
左列2人目

「2026年計画」第1回目のウォーキングは社友会の特別行事として開催し、総勢20名の参加となりました。参加者には米寿88歳の会員も2名参加頂きました。「京王高尾山口」に10時集合、天候にも恵まれ絶好のハイキング日和となりました。

コース

京王高尾山口駅集合～（1号路）～高尾山（599m）【昼食】～（4号路/吊り橋）～高尾山駅/山上駅～《リフト/ケーブルカー》～清滝駅/山麓駅（201m）～京王高尾山口駅～《電車》～JR八王子駅（反省会）

今回ケーブルカー、リフトの利用者もいましたが土曜日の割には混雑もなく乗車できました。高尾山はアクセスが良いため年間登山者数が260万人～300万人も訪れ、これは富士山の登山者数20万人～30万人の10倍で世界一登山者数の多い山として過去にギネス世界記録にも認定されています。

山頂駅（展望台）でケーブルカー組と合流し、今回は比較的歩きやすい1号路を選択しました。歩きやすいと言っても傾斜のきつい場所もあり日頃の運動不足が身に染みるところです。途中、浄心門、薬王院を通り休憩をとりながら出発から2時間弱で高尾山山頂に到着しました。

当初の計画ではこの先の小仏城山を目指す予定でしたが20名の大所帯という事もありここまでとしました。山頂広場はさすがにすごい人の数、その中でもどうにかスペースを確保して、お楽しみの昼食です。さっそく冷たいビールで乾杯して、和気あいあい楽しい情報交換の場となりました。出発前にMちゃんが確保してくれた地酒の「高尾山」の差し入れもあり、さらに出張料理人のNさんが得意の腕前で枝豆、空豆、ソーセージ等の料理の提供があり、山頂であったかい出来立てのおつまみをいただき、ごちそうさまでした。

帰路は4号路を選択しました。この道は途中に吊り橋があり自然道で山の雰囲気味わえる道です。途中1号路と合流し、徒歩組、ケーブルカー組、リフト組とに別れ高尾山口駅で全員無事下山を確認後、お土産買う人、買わない人ご苦労様です。

反省会はJR八王子駅前の金太郎です。ここでも大いに盛り上がり楽しい反省会となりました。目的地の小仏城山には行くことはできませんでしたが次回の楽しみとして、参加された皆さん大変おつかれさまでした。



薬王院



高尾山山頂



山頂で昼食



4号路の吊り橋



リフトで



お楽しみの・・・



Nさん クッキング

仲間と互いに健康交流！ 2026年（令和8年）行事計画・経過

時 期	行 事	開催場所	開催時間・その他
4月25日(土)	春のハイキング	新緑の高尾山ウォーク	10時 京王線 高尾山口駅 集合 20名の参加がありました
5月23日(土)	第33回 総会・懇親会	神奈川県民共済プラザビル メルヴェーユ 6階「ヴァランセ」	13時～15時 開催 総勢61名出席頂きました
7月18日(土)	みんなで元気に！ 暑気払い	ホテル メトロポリタン川崎 「Terrace and Table」	17時～19時30分 23名の参加がありました
10月31日(土)	秋のハイキング	御岳山ハイキングと新酒試飲	10時 JR青梅線 御嶽駅 集合

特別行事

今年も 暑気払いしました

今年で3回目となる暑気払いを昨年同様ホテルメトロポリタン川崎で開催しました。昨年は熱風の中の暑気払いでしたが、この日は最高気温30℃で夕方からは涼しい風も吹いて、会場のホテル屋外テラス席は心地よく過ごせました。

牧之田会長の開会あいさつで暑気払いスタートです。最年長で今年の米寿お祝い対象者の川嶋さん、翌日が80歳の誕生日という斎藤さん、京都から参加の三上さんをはじめ皆さんの思い思いのスピーチや近況報告に大笑いしたりであっという間の2時間でした。最後にハワイと沖縄の南国ファッションの大西相談役による締めめの挨拶でお開きに。来年はさらに多くの皆さんにお会いできればと思います。皆さま、お待ちしております。

日 時 2026年7月18日(土) 17時～19時30分

会 場 ホテル メトロポリタン川崎「Terrace and Table」

参加者 23名：森秀樹、芝原、三富、川嶋勝、谷川、三上、斎藤肇、田尻、前田、桑原、諫早、牧之田、河内、井上義、田内、古森、大田、大西、林、熊坂、中村睦、松本安、込山 (敬称略)(下線は行事委員の皆さん：ご苦労さま)



祭うちわでスタート



カンパイ!



南国ファッション



降矢 勝夫さんが 地元旭区で表彰されました

会員の降矢勝夫さんが、地元の横浜市旭区で、長年の地域ボランティア活動に尽力され、「地域福祉功労者」として2月14日に表彰されました。誠にありがとうございます。

【ご本人のコメントです】

1985年の夏47歳の時に二俣川ニュータウン地区に引越をして今年で41年になります。近くにある旭中防災拠点運営委員会に78才で入会し今年で10年になります。

2007年に発足した有償ボランティア活動に参加して、65才以上の要援護高齢者や障害者世帯を対象に、庭木の手入れ、芝刈り、ごみ処理、家具の移動・固定などの生活の困りごとをお手伝いする「チョコットしえんたい」での活動が認められて、このたび横浜市社会福祉協議会より表彰されました。住んで良かったと思える街、誰もがともに自分らしく安心して暮らせるまち、夏祭り、大運動会、餅つき大会、敬老の集い等の行事を通じ、若い世帯も巻き込みながら「ふるさと」と呼べるまちづくりに今後も協力したいと思っています。



後列右から4番目が降矢さん

新役員の挨拶

会員の皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。この程、幹事役を仰せつかりました1978年(昭和53年)入社の 大田 勝 です。

入社当時は名古屋製油所があり、合同入社式には70名以上の新人が集まりました。配属先は操油課で、5地区・9地区に原油タンクがあり、原油の受入、処理タンクの切替を行っていた時代です。

これまで色々な職場を経験させて頂きました。2026年3月で退職し、4月からパート勤務でまた操油課でお世話になっております。

幹事として微力ではありますが、お手伝いができればと思っております。どうぞ、ご指導ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



秋のハイキング ご案内

奥多摩 御岳山ウォーク、澤乃井 新酒試飲

1. 開催日 2026年10月31日(土) 雨天順延
2. 集合場所と時間 JR青梅線 御嶽駅 改札出口 10時集合
3. コース 御岳山ハイキングで木々紅葉の気配を感じ、酒蔵訪問で新酒を試飲し、秋を満喫
4. 費用 交通費・入園料および食事・飲食代は各自負担
5. 参加申込み方法 2026年10月上旬、牧之田会長から会員宛てメールで実施案内の予定です。
参加希望者は、案内メールに返信するか行事委員に電話してください。
6. 募集締め切り 10月21日(水)厳守
7. 本件問合せ先 【行事委員】中村睦夫、熊坂真紀

伝 言 板

新 会 員

門脇	滋夫さん	2026年 1 月	(神奈川県横浜市 在住)
鎌田	哲也さん	2026年 2 月	(神奈川県横浜市 在住)
諸田	健一さん	2026年 3 月	(東京都大田区 在住)
佐藤	周之さん	2026年 4 月	(神奈川県横浜市 在住)
木村	龍彦さん	2026年 7 月	(神奈川県横浜市 在住)

お悔やみ

岡田	智典さん	2025年10月 1 日 (享年 7 1)
川島	弘 さん	2026年 1 月 4 日 (享年 8 9)
甲斐	種千代さん	2026年 1 月24日 (享年 8 9)
納富	敏郎さん	2026年 2 月 7 日 (享年 9 3)
井上	重延さん	2026年 2 月25日 (享年 7 1)
代田	浩司さん	2026年 3 月21日 (享年 7 0)
関	由紀夫さん	2026年 5 月24日 (享年 6 9)

(2026年 8 月 1 日現在 会員数 1 9 1 名)

寄 付 金

令和 8 年 5 月23日の社友会総会で、東亜石油および小川宗一さんからそれぞれ総会祝い金をいただきました。

たより編集委員

古森 光一郎
諫早 昭三
河内 満
井上 義久
大田 勝
石井 好

会報たよりの発行作業は、たより34号(令和3年夏号)から従来の印刷会社からネット印刷会社への発注に変更してから5年となります。

編集作業はネットのZOOM会議を利用して、スピーディーな編集作業とコストの削減をはかってきました。

たよりは今号で44号となりました。過去のたよりは創刊号(平成15年)からすべてのたよりを電子化して保存しております。

これは故淡嶋英昭さんがスキャナーで取り込んで保存してくれたおかげです。今では社友会の大変貴重な歴史資料となっております。今後はアーカイブとして、皆さんに見ていただきたく、社友会のホームページへの掲載を検討しております。

たよりの記事は会員皆さんからの投稿記事で成り立っております。これからも皆様知って欲しい情報、共有したい情報などの声を聞きながら発行していきます。皆さんのご協力をよろしくお願いします。(K・I)

編 集 後 記

